

年頭のごあいさつ



伊佐市長

隈元 新

温故知新

明けましておめでとうございます。平成31年の新年をつつがなくお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、市制施行10周年を記念する各種イベントの華やかさの中に、キャッチフレーズの「生まれて10年 このさき10年 君と共に育つまち」を市民の皆さまと共に感ずることができました。

一方では、4月に発生した硫黄山噴火に伴い、川内川流域の水田の稲作を断念するというかつて経験のない困難な状況に直面しましたが、農家をはじめ、さまざまな皆さまの献身的なご尽力により乗り越えることができました。皆さまのご理解とご協力が改めて感謝申し上げます。

今年の4月で、30年間続いた平成の時代が終わります。戦後の昭和時代を知っている私には、平成は厳しい時代であったように感じます。経済成長を謳歌した時代から、バブル崩壊で「失われた20年」と呼ばれる低迷期となり、二度の大震災や相次ぐ天災からの復興、少子高齢化問題への対応など、平成は昭和の価値観を超えて、新しい社会のあり方を模索する時代であったように思います。

これまでの伊佐市の10年は、大河ドラマ「西郷どん」の時代背景に例えると、明治10年までの「御一新」と言われた10年間のようには思えます。元号が新しくなることに合わせ、伊佐市も西南戦争後の明治のごとく新しい時代になることを期待しています。伊佐市のこれからの主な事業として、今

年から2年間かけて市内の全小・中学校に空調設備を整備いたします。また、市役所新庁舎建設も市民の皆さまのご意見（パブリックコメント）をいただきながら進めてまいります。まずは川内川流域の水田の稲作について、農家の皆さまや関係機関と協議を重ね万全な対応で再開いたします。

明治維新のように、いつの時代も未来を拓いていくのは若者です。固定観念にとらわれず、自由な発想で何事にも挑戦できる若い世代の発掘や育成に取り組みたいと思います。安全で安心な市民の生活や地域づくりも、若い世代の活発な活動があつてこそできるものだと思っています。

これまでの10年に学び、これから先の10年も市民の皆さまと共にチャレンジし続けてまいりたいと思います。新しい年の門出にあたり、皆さまのご健勝とご多幸をお祈りいたしました私の新年のご挨拶といたします。

いにしえの道を聞きても唱えても
我が行いにせざるばかいなし

（島津日新公（いろは歌））

New Years greetings 2019

平成合格

明けましておめでとうございます。昨年の12月3日に議長に就任しました緒方重則でございます。大変恐縮に存じますが、市議会を代表いたしましたして、謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

伊佐市議会議長

緒方 重則



さて、今上天皇が即位された平成元年（1989年）の世界では米ソ冷戦が終結し、国内では消費税がスタート、バブル絶頂期で日経平均株価もうなぎのぼりで上昇し、最高値38,915円で元年を締めくくった年でありました。

それからバブルがはじけ、長期にわたり経済低迷期を迎えたことは皆さまも重々ご承知のとおりであります。失業率も高く、買い手市場では賃金も期待できず、経済は落ち込むばかりでありました。

近年ではアベノミクス効果なのか、国の税収等の伸び、失業率の改善どころか売り手市場へと変遷し、日本経済は先行きが明るい新年を迎えられていると安堵感を覚えているところがございます。この上昇気流をしっかりとつかまえて、経済発展につなげてほしいと期待を強く抱いております。

平成も本年4月までであります。このように山あり谷ありの平成時代も「終わりをよければ全てよし」のごとく、及第点をも凌ぐ「平成合格」と言っても過言ではない

だろうと思うところでございます。

そして、迎える新元号の時代はAIやIoTが普及し、日常生活の環境やライフスタイルが目まぐるしく変化することが考えられます。この変化は良い方向に向けてのみ進みますので、大いに想像の域を越えるような期待を抱いて、皆さまとともにその時がくるのを心待ちにしたいと思います。

最後に、今後の市議会として、対外的には観光浮揚対策、特別支援学校誘致活動の推進、山林の保全に努め、内的には条例制定の政策形成、執行部の監視、議会だよりの充実、そして議員定数の適正化も実施して、皆さまの負託に応えるべく取り組んで参ります。新元号が希望と自信を持てる意味のものであることを強く願い、元年が皆さまにとりまして幸多き年となりますよう祈念いたしましたして、年頭のご挨拶いたします。